

2019年度第1回 医療法人社団主体会倫理委員会 会議記録の概要	
開催日時	2019 年 4 月 15 日 16 時 ~ 16 時 30 分
開催場所	小山田記念温泉病院 第3会議室
出席委員	毛受、森、北村、原、山中、伊藤、浅野、家崎、清水、坂 (敬略称、順不同)
新規研究計画の審議	
申請者	加藤 康太
研究名	当院回復期リハビリテーション病棟退院後、転倒により再入院した患者の特徴について
研究内容 要旨	高齢者が入院する原因として転倒による骨折が挙げられており、転倒の約6割が住宅等の居住場所で発生している。回復期リハビリテーション病棟においては、入院時または退院前に療法士が退院先である自宅に訪問し、退院後の生活や家屋改修等に関する助言・指導を行う訪問指導が行われているが、その効果に関する検討は十分にされていない。また、回復期リハビリテーション病棟において、退院後転倒することなく在宅生活を送れるように支援することは重要な課題であると言える。そこで、当院回復期リハビリテーション病棟において、退院後転倒により再入院した患者についての調査を行い、転倒により再入院する患者の特徴について明らかにする。
審議結果	承認 2018-10
参考	「研究計画書の軽微な変更に関する審議」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	平田 眞由美
研究名	透析患者における睡眠呼吸障害 (SDB)
研究内容 要旨	近年透析患者のSDBが注目されている。その割合は30~50%に及ぶと報告があり、健常人に比べSDBの割合は10倍近いといわれている。生命予後の観点からSDBの早期発見に努める必要がある。過去に透析患者に対して行った簡易睡眠検査の結果から判明したSDBの重要度と、後述の評価項目からSDB患者における傾向を分析調査する。
審議結果	承認 2018-11
参考	「研究計画書の軽微な変更に関する審議」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	村岡 大輔
研究名	穿刺時におけるVAエコー活用の評価 ~再穿刺回数軽減に向けた取り組み~
研究内容 要旨	透析中の穿刺ミス件数が多く見られた時期があり、患者から再穿刺に対する不安やストレスの声が多く聞かれた。そこでVAエコーを活用すると容易に血管内へ刺入することができた。エコー業務を集計しエコー技術の確立が穿刺回数の減少に有効であるかを明らかにする。
審議結果	承認 2018-13
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないもの」であり、「既存試料を用いて、集計。統計処理等を行うもの」と考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	中村 毅
研究名	入浴の食欲、深部体温、食欲調整ホルモンへの影響についての検討
研究内容 要旨	高齢化、認知症患者の増加とともにフレイル、サルコペニアといった栄養不良に関する問題がある一方、過食による生活習慣病の増加が問題となっている。日常生活習慣である入浴による深部体温変動が食欲、食欲関連ホルモンへ与える影響を検討する。
審議結果	承認 2018-14
参考	研究計画の軽微な変更であり、書類審議を行った。 一部の委員から、提出書類に同意書が添付されていないとの指摘があったので、同意書の提出を促し、提出された同意書の内容を確認後、承認とした。 本研究は和歌山県立医科大学との共同研究であり、人体から採取した試料（血清）を匿名化した上で和歌山県立医科大学に提出する。
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 卓也
研究名	リハビリテーション職におけるワーク・モチベーション要因の分析
研究内容 要旨	リハビリテーション職種（理学療法士、作業療法士、言語聴覚士）における、ワークモチベーション（仕事の意欲、やる気）についてMSQ (Motivation of Status Quo) を用いて、構成要因を明らかにし、各職種や経験年数などによる特徴を検討する。
審議結果	承認 2018-15
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心的苦痛を伴わないアンケート調査に関する審議」であり、「研究計画書の軽微な変更に関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	加藤 康太
研究名	転倒・転落によって当院に入院した患者の特徴について
研究内容 要旨	高齢者が入院する原因として転倒による骨折が挙げられており、転倒要因に関する様々な調査が行われている。しかし、高齢者人口の増加や平均寿命の延伸に伴い、入院患者の状況は変化している。そのため、転倒によって入院する患者の状況も変化していることが予想される。そこで、転倒・転落によって当院へ入院した患者の特徴について明らかにし、転倒・転落による入院を予防するための方法を検討する。
審議結果	承認 2018-16
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。

新規研究計画の審議	
申請者	安藤 智美
研究名	災害発生時の行動イメージ向上のための取り組み
研究内容 要旨	災害時、病棟スタッフは患者の生命を守り、自身の安全を確保する必要がある。アンケートによる意識調査を行い情報収集・分析し、その時とるべき行動を病棟スタッフが認識することを目指すことを目的とする。
審議結果	承認 2018-17
参考	「侵襲を伴わない研究であって介入を行わないものに関する審議」であり、「心的苦痛を伴わないアンケート調査に関する審議」であると考えられたので、書類審議を行い、その結果承認とした。
新規研究計画の審議	
申請者	野田 阿由美
研究名	小山田記念温泉病院における要介護被保険者、虚弱高齢者の心身機能と生活機能の変化
研究内容 要旨	当院通所リハビリテーション、コミュニティプールを利用している要介護被保険者及び虚弱高齢者を対象としたコホート研究を行ない、測定開始時の利用者の特性を横断的に分析するとともに、測定した項目を経時的に比較検討したいと考えた。生活機能・心身機能に関連する評価を行い、同一対象者を追跡調査することで、経時的变化の特性を明らかとし、目的に合わせたサービスを提供していくことにつなげることができると考えた。
審議結果	承認 2019-01
参考	研究計画の軽微な変更であり、書類審議を行い、承認とした。 鈴鹿医療科学大学、星城大学など、他の研究機関に属する研究者が分担研究者に含まれているが、研究試料、情報は小山田記念温泉病院内のみで取り扱い、鈴鹿医療科学大学に持ち出すことはない。 また、他の研究機関から研究機器の貸与は受けているが、研究資金の提供は受けていない。
新規研究計画の審議	
申請者	伊藤 千絵
研究名	楽しい食事を目指して ～食べて元気モリモリ！～
研究内容 要旨	加齢に伴い、口腔機能の衰えは徐々に進んでいく。食事に対する意識の低下は、身体機能の衰えを引き起こす原因の1つとなっている。日常生活の中に口腔体操を取り入れる事により、飲み込み力の回復、生活意欲の向上を目指す。
審議結果	条件付き承認 2019-03
参考	実施計画書の「ムセ、飲み込み力の回復」を、「飲み込み力の回復」に改める。 説明書の「審査を受け認証されており」を、「審査を受けており」に改める。